

平成二四年三月七日（水）

衆議院財務金融委員会

速記録（議事速報）

○海江田委員長 次に、豊田潤多郎君。

○豊田委員 新党きづなの豊田潤多郎でございます。

私は、安住大臣に、過去三回で関連を合わせ二問質問ということになりましたが、きょうは、一番冒頭に申し上げました三番目の、昨年の年末に私が離党を決意した最後のホップ、ステップ、ジャンプのジャンプの質問になるわけですけれども、改めて申し上げますと、統治機構、組織の見直しを含む徹底した無駄の排除と予算の効率化による歳出の大幅削減を実行しないまま、なぜ消費税の増税だけを強引に進めようとしたのか。これは過去形ですけれども、しているのかということになると思いますが、まず、それにお答え願いたいと思います。

○安住国務大臣 やはり社会保障の充実、それから、それに伴う財源の確保というのは喫緊の課題

であります。ですから、そういう点では、さまざま、我が国の深刻な財政状況を考えれば、私は、一年でも早く消費税というものを国民の皆さんの合意を得て引き上げさせていただいて、そうした財源に充てていくということが必要であるというふうに考えております。

これは、総理も含めて昨年の十二月の末に行われた我が党の税と社会保障の素案の決定においても、熱心な議論はありましたけれども、最後はそれで決定をしたということです。

○豊田委員 今の御説明は私の問いに答えていない。単に消費税を財源として必要だから上げるんだという、そういうことでありまして、私の問いは、消費税を上げる前になぜ歳出の大幅削減を実行しないんだと。統治機構や組織の見直しを含む徹底した無駄の排除、予算の効率化。

これは、この前も委員会で申し上げましたが、具体的数字を申し上げますと、一月のNHKの世論調査では、七一・二％の人が消費税の増税の前にやるべきことがあるのではないかといいことを言っていますし、消費税そのものを反対の人は一三・六％、これを合わせると八四・八％、八割五分の人が消費税に反対ですが、そのうちの七〇％を超える人は、消費税はやむないとしても、その前にやるべきことがあるであろう、こう言っているわけですね。

だから、私の質問に、これ、全然、安住大臣、お答えになっていないんで。私も当然、財政的に今大変だということはよくわかっておりますし、いずれ消費税は上げるべきものであるというのは

私も同感であります。ずっと申し上げています。しかし、その前にやる必要があるだろうということに何にもお答えになっていないということ。

さらに、時間が十五分しかないもので、もう全部思いのたけを申し上げますが、今民主党の中で、消費税の増税の前に、つけ焼き刃的に、総理が去年の秋ぐらいから、余りの世論の反発の強さに、行政改革、政治改革を一体としてやっていくんだという、そういうことをつけ焼き刃的に持ち出された。これは、私は三つ、ちよつとポイントをつけ加えて、安住大臣にもう一度お答えを願いたいと思いますが。

一問目は、一問目というか第一のポイントは、なぜ行財政改革なり政治改革なりを実行、実現してから消費税を引き上げようとしなのか。やります、やりますという口約束ばかりで、具体的に言えば、例えば行財政改革を本気にやるんだから、消費税の増税法案の大綱を決めるときに行財政改革法案の大綱というのが出てきてもいいんじゃないんで。あるいは、消費税の法案を本當に閣議決定するんなら、少なくともあわせて、その時期に行財政改革の具体的な実行法案というようなものも決定する。あるいは、法案だけではないかもいれませんが、そういう閣議決定を行うという、まず、やるという実行、実現をしてから、消費税の増税の議論に入るべきではないか、これが第一点です。

第二点。今民主党の中で、私はもう民主党を離れてしまいましたから状況がもう一つよくわかりませんが、昨年の十二月十四日に、今の岡

田副総理を会長として行政改革調査会というのを発足された。党の中の機関です。それから三人もその後、中川さんにかわり、それから今は中野寛成さんにかわっていると。実質、二カ月ぐらいの間に三人、トップが交代している。こういうふうな状況で、本当に行財政改革に本気で取り組むつもりがあるのでしょうか。これは誰にかわったってやるんですというふうにお答えになると思いますが。

それに関連して、その中身の話なんです。

岡田さんが、やめる前にとりあえずまとめなきやならないというので、独法とか特別会計を統廃合する案をまとめられましたけれども、あれも中身の全くない話で、例えば独法でいえば、A 法人と B 法人を統合した、名前は A B 法人にした、しかし実態は二つのものが一緒になっただけで、何らその中に、削減なりそういう工夫がされていない。

特会にしても、A 特会と B 特会を足して A B 特会にするということですが、中の勘定はみんな残ったまま。場合によっては……（発言する者あり）いや、だから中身の話は具体的にまだ出てきていないじゃないですか。（発言する者あり）出ますよ。出さなくて、出してください。まず、そういう形の、独法なりあるいは特別会計の試算で、実際にどれだけ経費が削減されているかという試算もその見込みもなされていないという内容。

それから、中川さんが行政構造改革法案の骨子として出されたのも、十三年度までに公務員の総人件費を二割削減するというのも、その具体的な

期間を検討するというところで実施時期を先送りした。それから、五年間で一千四百億円以上の公務員住宅売却とした数値目標も消し去られた。こういうのが中川さんの段階で出てきた。

そして、これは二月の二十九日ですけれども、中野会長のもとで、これは議員立法ということで提出する予定とお聞きしていますが、行政改革実行法案という仮称で、出されたのも、公務員の人件費の二割削減を目標とする、目標とするですね。それから、二〇一六年度末までに五千億円以上を目安として国有地の売却を行うということなんです。具体的などうするかという手順は全く明確にされていない。

こういうことで、本当にきちっと行財政改革というものを本気で取り組んでやっていかれるのだろうか、私はそこに非常に疑問を感じているわけです。

それから、三番目。

これは今までも御質問の中にありましたけれども、社会保障の関連法案という、今国会に提出予定とされているもので重立ったものが五本あるというふうには私は理解しております。

そのうち、国民年金法改正案というのは既に提出されています。私の情報は数日前のものですから、時間的にタイムラグがあつて、ちゃんと措置されていたらこれは申しわけないと思いますけれども、私が数日前に得た情報では、子ども・子育て新システム関連法案、これはまだ未提出。三月をめどに出したいというふうなお話のようですが、未提出。それから、年金改革関連法案、これも未

提出。これは提出のおくれもあり、内容が後退する可能性もあると言われていたようです。それから、健康保険法等改正案、これは提出のめどが立たずということのようです。それから、介護保険法改正案、これも提出のめどが立たず。

ですから、重立った社会保障関連法案、五本あるうちの一本は出ておりますが、四本は未提出。しかも、ほとんどめどが立たないとかおくれるんじゃないかというふうな、これで一体改革というのは、今までも皆さんいろいろ指摘されておられますけれども、これが社会保障と税の一体改革だというのは、私は非常に疑問を感じる。

この三点。行財政改革をまず実現、実行してから消費税の議論に入るべきじゃないか、二番目に、今民主党の中で検討されている案というのは本当におやりになる覚悟でやっておられるのだろうか。三番目に、社会保障のところの今提出の法案、これが間に合わない、時期的に何か準備中だとはおっしゃると思えますけれども、本当に、なぜ消費税だけが先に先行して上がっていくのか。私は、消費税の増税の前にやるべきことがあるのではないかとこの観点で、改めてもう一度大臣の見解を問います。

○安住国務大臣 非常に民主党に関心を持ってもらえるようですから……（豊田委員「関心というか、もといたところですかね」と呼ぶ）そんなに関心があるのなら、やはり頑張っていて、自分の目標を少しでも、もし党の方に反映するんだつたら、豊田さんのような方であれば党で頑張ってもらいたかったなと思うんです。

私は、三つ答える前に、一つ疑問があるんです。きのう、渡辺浩一郎さんという方は同じ党ですね、予算委員会で私に、やはり公共事業をもっとどんどんやれ、財政支出をやらないと景気は落ち込むという話をしていました。まだ政策的に、新しい党になられて、御主張が合っていないのかもしれないけれども、やはり、人によって言うことが違うというのは、ちよつとなかなか答えるのが難しいところがあります。

それで、歳出の削減については、公務員の歳出カットは、やはりコンセンサスを得て実現しました。だから、自民党、公明党、そして我が党で話し合つて、やはりそうやってコンセンサスを得なければ実現しないんですね。実現をして、さかのぼつて四月までやるのは、やはりそうした話し合いで合意を得たからです。ただ、こうやれ、あやれと言つたつて、実現するわけでないんですね。そこは、現実の政治というのは非常に難しいものであるけれども、同時に、汗をかいた者のみかやはり果実をちゃんとつかむんだということを私は申し上げたいと思います。

それから、特別会計の話も、少しやはり誤解があると思います。社会資本整備特会のことは、例えば、見てください、空港特会以外は皆廃止です。これを空港特会に寄せるなんという話は全くありません。道路も何も、みんなやめるんです。ですから、そういう点では、結果的には、戦後始まつて以来の大改革になると思いますよ。（豊田委員「幾ら削減になるんですか」と呼ぶ）その削減額はいずれ出てきます。なくなるわけですから。（

豊田委員「いずれですか、いずれ」と呼ぶ）

○海江田委員長 座つたまま発言しないでください。

○安住国務大臣 まず、家をなくすわけだから。

塩川大臣が以前言つていたように、母屋ですき焼きを食べている、そのすき焼きの値段は幾らだというお話かもしれない……（発言する者あり）離れた。母屋じゃおかゆをすすつて、離れでね。その離れを壊すわけだから、離れを壊すんですから、それが価値がないというのは、大蔵省におられた方としてはどうなのかなど。これはやはり大きな影響は与えますよ、予算全体に。一般歳出、一般会計でやらざるを得なくなりますから、国交省なんかも。そういう点では意義のあるものである。箱がなくなれば、やはり当然そこには大きな歳出の無駄のカットというのは生まれてくるんです。

それは、あわせて独法の改革もそうです。数だけ減らしたからいいというものではないといいますが、では、これまで数をなぜ減らせなかったのかということなんです。だから、私は、そういう点では、これは天下りの問題なんかに、この大きな改革につながると思います。

それから、社会保障に関しては、順次出します。ですから、三月中に出せないかもしれませんが、しかし、タイムラグがあるにしても、今国会で御主張のあつたようなものは責任を持って、与党の責任で出して、そして責任のある野党の皆さんとしっかり話をして結論を出したいと思つています。

○海江田委員長 豊田潤多郎君、もうほとんど質疑時間がなくなつていきますので。

○豊田委員 わかりました。

もう質問はいたしませんけれども、大臣の答弁をお聞きして、かなり後ろ向きというか、もつと前向きにしっかりとやっていただきたいと思つています。

次から次に後でやりますという話なのに、なぜ消費税だけを決めてしまおうという、その辺を私は疑問に思つているということを再度申し上げます、質問を終わります。

きょうはありがとうございました。